

花巻観光振興ビジョン

2020年3月

一般社団法人花巻観光協会

目次

第1章 ビジョン策定の背景と目的	1
1. 花巻の観光を取り巻く現状	1
2. ビジョン策定の背景と目的	5
3. ビジョン策定のプロセス	6
4. ビジョンの位置付け	6
5. ビジョンの構成	7
第2章 花巻の強み・弱みと外部環境の変化	8
第3章 花巻の観光振興の方向性	9
第4章 基本方針	10
1. コンセプト	10
2. 目標値	11
3. 主に狙うマーケット	12
4. ビジョンの体系	13
第5章 プロジェクト.....	15
【前期（2020～23年）重点プロジェクト】	15
【全期（2020～29年）重点プロジェクト】	17
【中期（2024～26年）、後期（2027～29年）重点プロジェクト】.....	18
第6章 ビジョンの推進体制と監理.....	20
1. ビジョンを推進するための体制	20
2. ビジョンの監理.....	20

第1章 ビジョン策定の背景と目的

1. 花巻の観光を取り巻く現状

(1)人口の推移

- 日本では少子化による人口減少や高齢化が進んでいますが、これは花巻市においても同様であり、平成27年(2015年)の国勢調査における人口は97,702人と、平成12年(2000年)の107,175人から9,473人減少しています。また、年齢別人口では65歳以上人口は全体の32.0%を占めており、平成12年の 22.7%から9.3ポイント上昇しています。
- また、平成30年度末の花巻市の住民登録人口は95,501人で、65歳以上の人口比率は33.7%です。

図1 花巻市の人口の推移

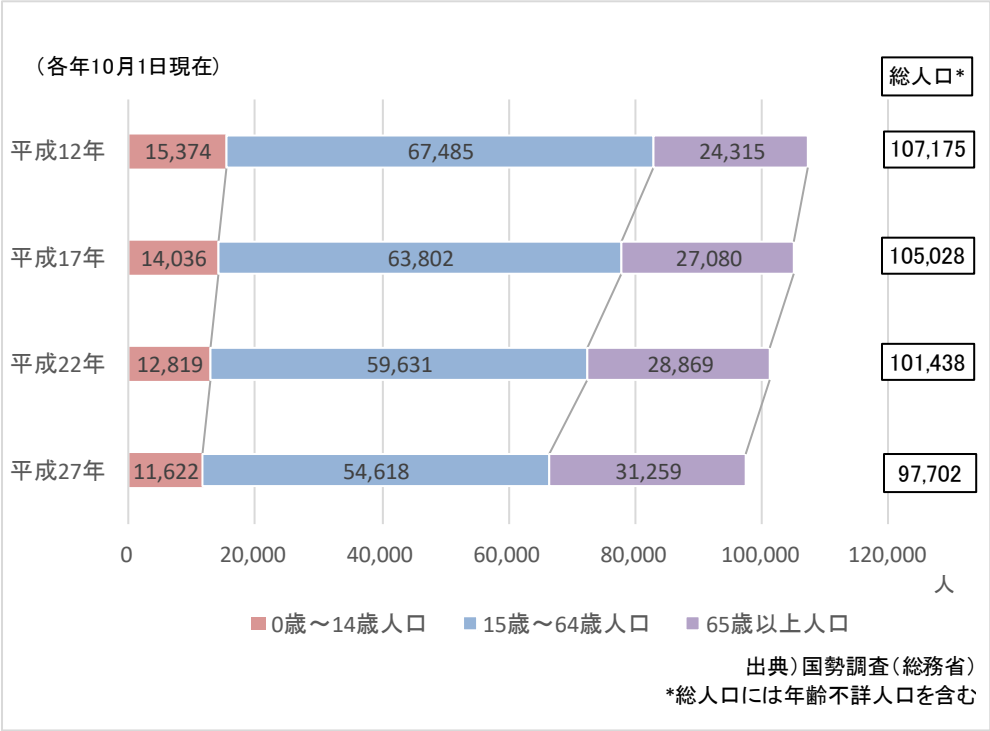


表1 花巻市の住民登録人口(年齢別)

区分	総数	15歳未満		15歳～64歳		65歳以上	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
平成31年3月31日 現在	95,501人	10,788人	11.3%	52,565人	55.0%	32,148人	33.7%

出典) 花巻市市民登録課

※ 国勢調査は住民登録とは関係なく、現在、市内に住んでいる人や世帯を対象に調査を行うため、住民登録の人口とかい離が生じます

(2)観光客入込数、延べ宿泊客数の推移

○花巻市の平成30年(2018年)の観光客入込数は約201万人回となっており、平成26年(2014年)と比較すると約7%の減少となっています。なお、岩手県全体の平成30年の観光客入込数は約2,840万人回となっており、平成26年と比較すると約3%の減少となっています。

○花巻市の平成30年の延べ宿泊客数は約80万人泊となっており、平成26年と比較すると約9%の減少となっています。一方、岩手県の平成30年の延べ宿泊者数は約606万人泊となっており、平成26年と比較すると約3%の増加となっています。

図2 花巻市の観光客入込数、延べ宿泊者数の推移

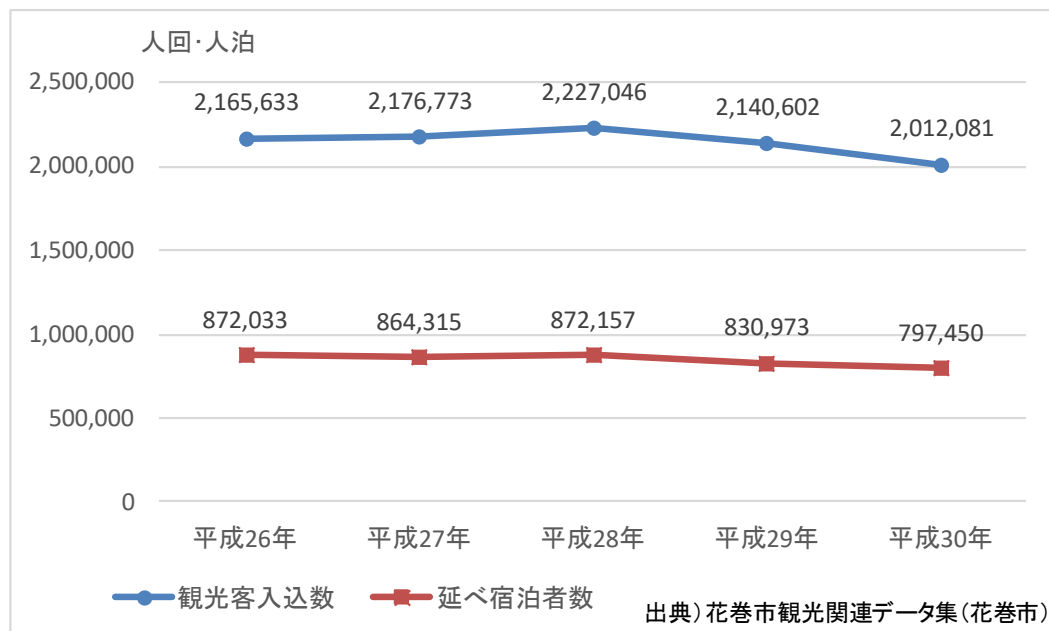
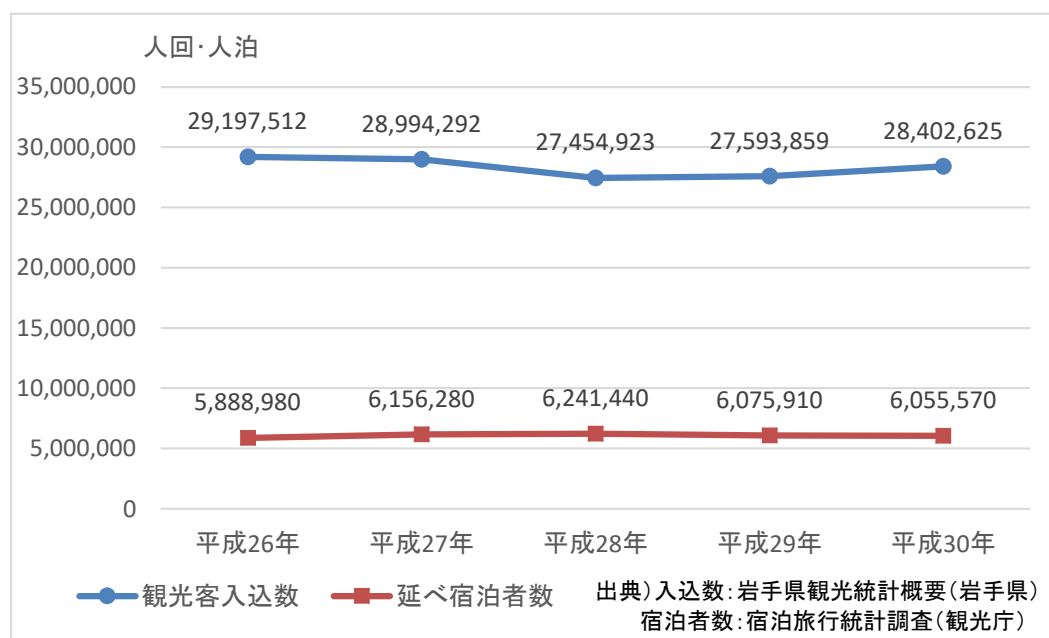


図3 岩手県の観光客入込数、延べ宿泊者数の推移



(3)訪日外国人観光客の推移

○花巻市の訪日外国人観光客(インバウンド)入込数は、平成30年(2018年)で年間約5万人となっています。花巻市は小規模な自治体としては早い時期からインバウンドに取り組んでおり、平成22年(2010年)には年間約2万人の外国人観光客が訪れていました。東日本大震災により入込数は激減しましたが、平成27年(2015年)に震災前の水準を回復し、近年ではいわて花巻空港への国際チャーター便・定期便の就航等により急増しています。

○平成30年の花巻市の訪日外国人観光客入込数を国籍別にみると、台湾が約8割(約4万人)を占め、以下、香港、中国、韓国、タイと続きます。

図4 花巻市の訪日外国人観光客入込数

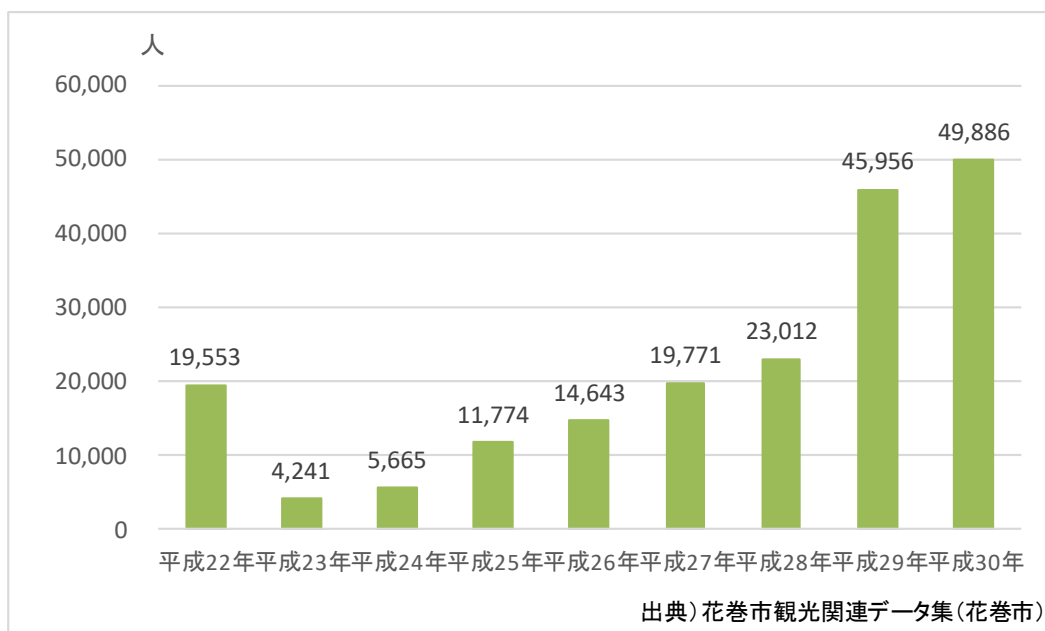
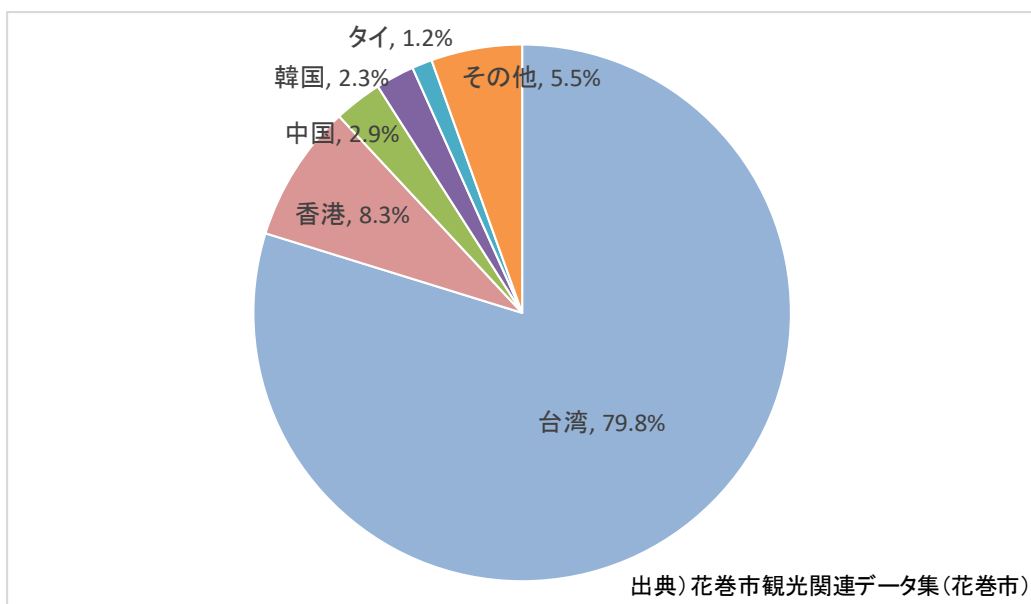
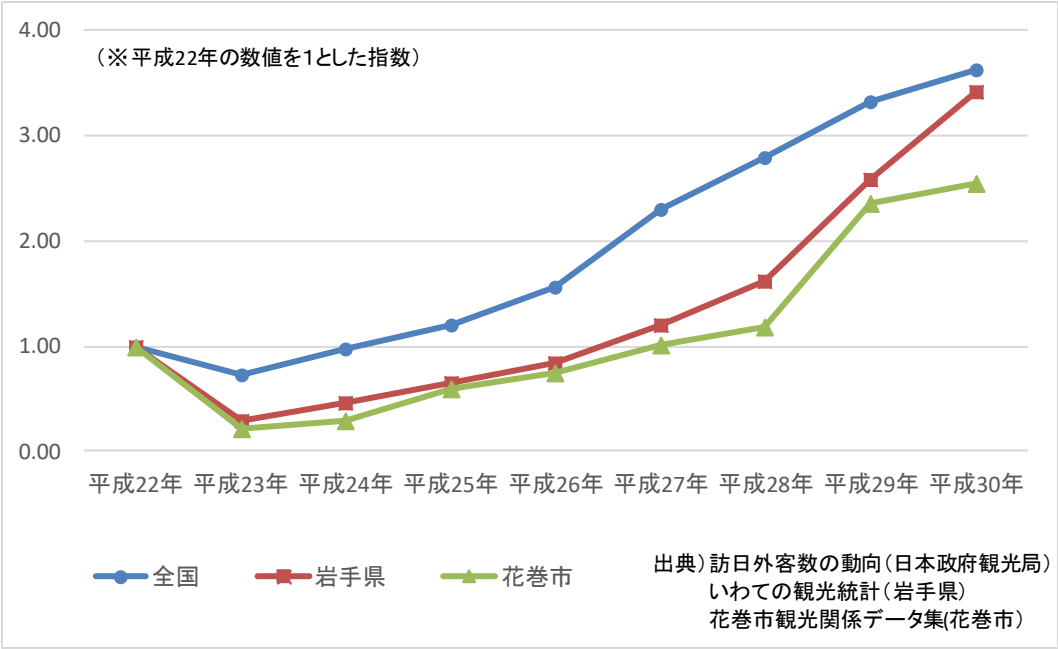


図5 花巻市の訪日外国人観光客入込数(国籍別、平成30年)



○全国および岩手県、花巻市の訪日外国人観光客(インバウンド)入込数について、平成22年(2010年)の数値を1として平成30年(2018年)をみると、全国では3.62、岩手県では3.41に対して、花巻市は2.55とやや低くなっています。岩手県・花巻市では、東日本大震災が発生した平成23年(2011年)の落ち込みが全国に比べ大きく、平成22年の水準までの回復に全国より時間を要したことがうかがえます。

図6 訪日外国人観光客入込数の動向比較



(単位:人)

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
全国	8,611,175	6,218,752	8,358,105	10,363,904	13,413,467	19,737,409	24,039,700	28,691,073	31,191,856
岩手県	100,887	28,737	46,841	66,119	85,423	121,491	163,230	260,392	344,140
花巻市	19,553	4,241	5,665	11,774	14,643	19,771	23,012	45,956	49,886

※平成22年を1とした指数

	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年
全国	1.00	0.72	0.97	1.20	1.56	2.29	2.79	3.33	3.62
岩手県	1.00	0.28	0.46	0.66	0.85	1.20	1.62	2.58	3.41
花巻市	1.00	0.22	0.29	0.60	0.75	1.01	1.18	2.35	2.55

2. ビジョン策定の背景と目的

○花巻を含む日本の多くの地域で定住人口が減り続ける中、地方部において雇用を生み出すことに繋がる「交流人口による地域経済活性化(＝観光振興)」は、これまで以上に重要となっています。

○日本の旅行市場は、日本人の国内旅行がこれまでの団体型旅行から個人型旅行へと移行していること、また、政府一丸となった取り組み等から日本を訪れる外国人旅行者が急増していることなど、大きく変化しています。

図7 旅行会社などが募集した団体に参加した宿泊観光旅行の割合の推移

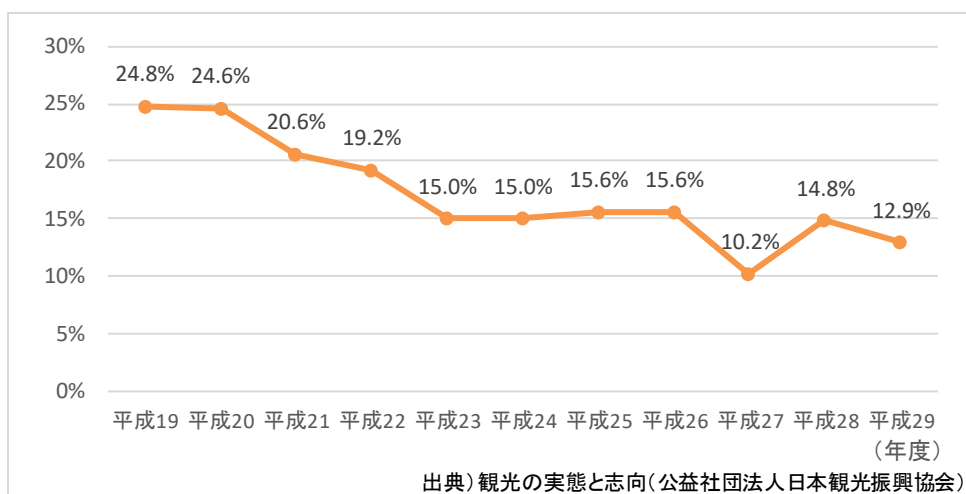
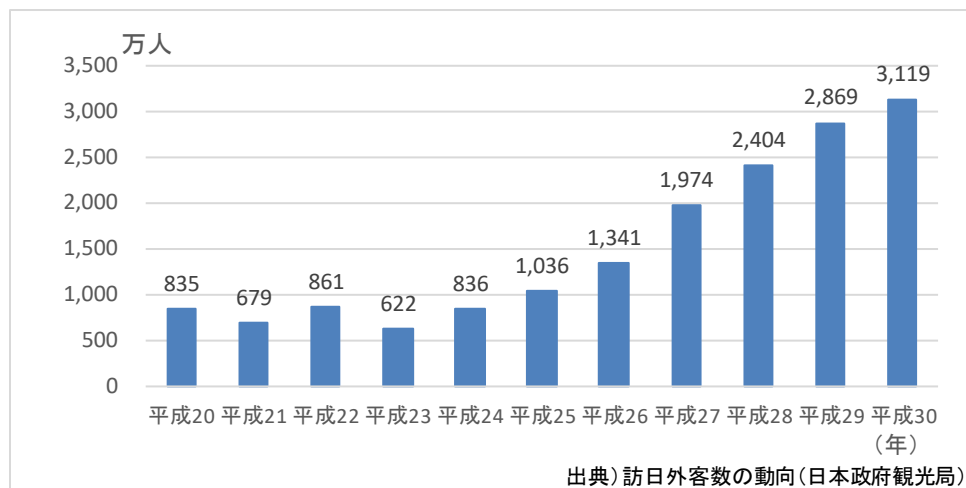


図8 訪日外国人旅行者数の推移



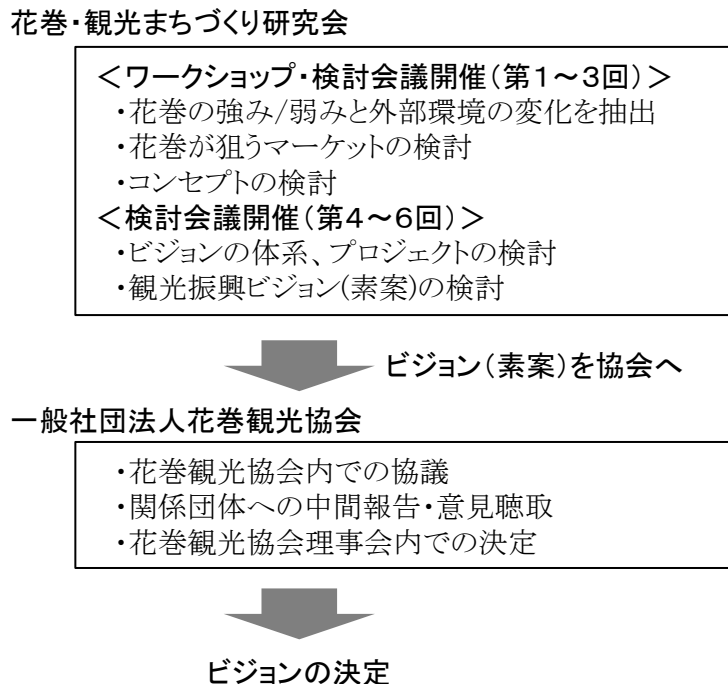
○このような旅行市場の大きな変化に対応しながら、交流人口による地域経済活性化を実現していくためには、戦略的に観光への取り組みを進めることが必要となります。

○そのため、「花巻の観光振興をどのようなコンセプトで進め、具体的に何をするのか、どのような体制で実施するのか」を示した観光振興ビジョンを策定しました。

3. ビジョン策定のプロセス

- 本ビジョンの策定にあたっては、花巻市内で観光活性化やまちづくりに積極的に取り組む方々を委員とした「花巻・観光まちづくり研究会」(事務局:一般社団法人花巻観光協会、花巻温泉郷観光推進協議会)を設置し、研究会においてワークショップおよび会議を計6回開催し素案を作成しました。
- 作成された素案を基に、一般社団法人花巻観光協会に設置した委員会を中心に更なる検討を行い、行政や関係組織との調整を経てとりまとめました。

図9 ビジョン策定のプロセス



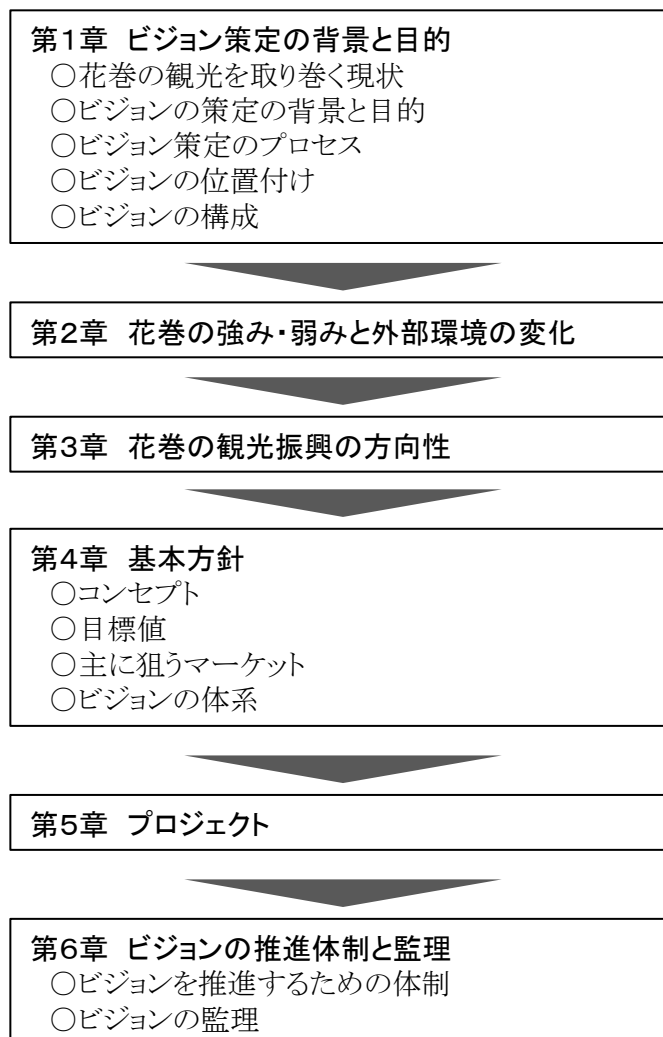
4. ビジョンの位置付け

- 本ビジョンは一般社団法人花巻観光協会が中心となって、花巻の観光振興の基本的な考え方や今後の取り組みの方向性等を、行政と連携しながら民間主体で検討し示したものです。
- 本ビジョンは、約10年後の2030年を目標年次として設定しています。また、本ビジョンでは花巻の観光振興のコンセプトを実現させるための基本戦略に基づくプロジェクトを設定していますが、2030年までの期間を3～4年ごとに前期、中期、後期と分け、各期が終了する年に見直しを行い、次期に重点とすべきプロジェクトを設定していくこととしています。

5. ビジョンの構成

- まず第1章で、花巻の観光を取り巻く現状や本ビジョン策定の背景と目的、策定のプロセス、ビジョンの位置付け等を整理しています。
- 第2章では、花巻の強み・弱みと外部環境の変化を整理し、それを受けて第3章で花巻の観光振興の方向性を示しています。
- 第4章では、ビジョンの基本方針として、コンセプト、目標値、主に狙うマーケットを示すとともに、ビジョンの体系を示しています。この体系において、コンセプトを実現させるための4つの基本戦略、前期(2020～2023年)に重点をおく4つのプロジェクトおよび中期・後期のプロジェクト(計9プロジェクト)を示しています。
- 第5章では、各プロジェクトの10年後に目指す姿およびプロジェクトの概要を示しています。そして最終章の第6章では、ビジョンの推進体制および監理の方法を示しています。

図10 ビジョンの構成



第2章 花巻の強み・弱みと外部環境の変化

- 花巻・観光まちづくり研究会での議論を基に、花巻の強み・弱みを以下のように整理しました。
- 主な強みとしては、温泉のイメージが強いこと、宮沢賢治の故郷であるといった歴史文化を有すること、空港・新幹線駅・インターチェンジの高速交通網の結節点として利便性が高いことなどが挙げられます。
- 一方、主な弱みとしては、観光施設の点在やそれを繋ぐ二次交通の弱さ、花巻での滞在時間の短さなどが挙げられます。

花巻の強み	花巻の弱み
<ul style="list-style-type: none">■ 温泉：東北の宿泊拠点としての強い温泉のイメージ、1温泉1源泉の個性の異なる温泉旅館の存在、周辺地域で比較した際の宿泊容量の大きさ（温泉宿泊施設の収容人員は約6,200人）■ 自然：日本百名山の早池峰山の存在、涼しい夏、冬期の雪、日本の原風景■ 食・特産品：発祥の地と言われるわんこそば、大迫を中心とする花巻ワイン、日本三大杜氏の一つである南部杜氏による日本酒■ 歴史文化：宮沢賢治の故郷、ユネスコ無形文化遺産である早池峰神楽■ 交通アクセス：空港、新幹線駅、インターチェンジが揃う利便性の高さ■ スポーツ：特に花巻ゆかりの野球選手が活躍	<ul style="list-style-type: none">■ 連携の弱さ：観光施設が点在しており、ソフト面での連携も十分とは言えない状況■ 二次交通の弱さ：点在する観光施設を移動する際の二次交通が十分とは言えない状況■ 滞在時間の短さ：団体旅行の宿泊拠点として成長してきた経緯もあり、宿泊はするものの宿泊前後の市内での滞在が短い■ 冬期の観光客減少：二次交通の課題もあり、冬期間に地域の魅力をアピールしづらく、観光客の減少につながっている■ マーケットの偏り：インバウンドの多くは台湾からの旅行者、国内は団体客の割合が高い

- また、花巻・観光まちづくり研究会での議論を基に、花巻にとってプラスあるいはマイナスの影響となりうる主な外部環境の変化を以下のように整理しました。

花巻にとってプラスの影響	花巻にとってマイナスの影響
<ul style="list-style-type: none">■ インバウンドの増加：台湾や中国からのインバウンドの更なる増加が見込まれる■ 東北への注目の増加：東北観光への注目度が高まっている■ 国際イベントの開催：ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピックといった国際イベントが開催される■ 海外との路線が存在：花巻ー台北・上海の直行便が存在する■ 高速道路の整備の進展：釜石自動車道が整備される	<ul style="list-style-type: none">■ 旅行市場の変化：団体客の激減・個人化が進み、ネット予約が増加している■ 人口の減少：日本全体が少子化に進む中、花巻市においても人口が減少している（労働力の不足にも繋がる）■ 災害イメージの存在：地震や台風など自然災害のイメージが強い■ 自然環境の変化：夏の涼しさが今後失われる可能性がある

第3章 花巻の観光振興の方向性

○花巻の観光の現状および花巻の強みや弱み、外部環境の変化を踏まえると、今後の花巻の観光振興の方向性は以下の通りと考えられます。

①花巻において高い集客力を持つ、温泉を軸とした取り組みの推進

ー花巻は東北の宿泊拠点としての強い温泉のイメージがあります。この強みを活かして観光振興の取り組みを展開していくことは必須と考えられます。

②個人旅行に対応するための取り組みの推進

ー花巻の温泉を訪れていた日本人旅行者は、これまでは旅行会社や各種団体のツアーが主流でしたが、旅行市場はこうした団体型の旅行から家族やカップル等の個人型の旅行に変化してきています。

ー今後は、こうした個人型で訪れる旅行者が快適に観光できるように取り組んでいくことが重要となります。

③外国人旅行者に対応するための取り組みの推進

ー日本を訪れる外国人旅行者は引き続き増加する見込みであり、花巻においても台湾からの旅行者を中心として外国人旅行者の更なる拡大が期待されます。

ーまた、外国人旅行者も日本人旅行者と同様、団体型の旅行から個人型の旅行に変化していくことが見込まれますので、今後はこうした外国人旅行者にとっても快適な観光地となるよう取り組んでいくことが重要となります。

④花巻に「滞在してもらう」ための取り組みの推進

ー温泉を軸とした取り組み、また日本人旅行者や外国人旅行者への対応を進める上で重要なことは、花巻に宿泊するためだけに訪れてもらうのではなく、市内のさまざまな魅力を楽しんでもらい、より長く花巻に滞在してもらうことです。

ーそのためには、市内のさまざまな魅力をストーリーを持って繋ぎあわせたり、回遊をしやすくしたりすることが重要となります。

第4章 基本方針

1. コンセプト

花巻 1 2 湯 ～湯ったり、感じる「花巻じかん」～

(考え方)

- 花巻の強みとは、宮沢賢治が「イーハトーブ」と表現した理想郷をイメージさせる、遠くに岩手山が見え、目の前に田んぼが広がるといった雄大で、かつ人の生活の営みを感じられるほっとする空間です。そして、この空間の中に、「1温泉1源泉」の12温泉で構成される花巻温泉郷が存在します。
- これまで、花巻温泉郷は「花巻にある温泉の集合体」という捉え方で、それぞれの宿の個性や特徴を伝えきれていませんでした。特に、個人型の旅行においては、その時々によって行き先や目的が変化していくことが想定されます。このため、それぞれに源泉を有する温泉の価値を見直し特徴を明確化するとともに、多様な温泉で構成されていることを強くアピールすることが重要となります。
- さらに、今後は「見る観光」から、「体験などを通じて心から感じる観光」へと移行していくことが想定されます。こうした背景を踏まえて、花巻で暮らしてきた人々が培ってきた理想郷といえる空間で、人々と触れ合いながら時間に追われずにゆったりとした流れの中で過ごすという、時間・空間の両面でくつろぐことなどを意味する「花巻じかん」を、より多くの来訪者が体感できるよう取り組んでいきます。
- 花巻の観光地域づくりでは、温泉を軸に、花巻での体験を通して来訪者と「花巻じかん」を共有することで、花巻での滞在時間を楽しむ(延長する)ほか、「また花巻に行こう!」と思ってもらえるリピーターを増やしていくことを目指します。

2. 目標値

○本ビジョンにおいては、以下の指標について目標値を設定します。なお、目標値はビジョンの見直し時の状況により、必要に応じて修正するものとします。

指 標	基準値(※)	2024年 前期(2020～23年) 終了後	2027年 中期(2024～26年) 終了後	2030年 終期(2027～29年) 終了後
旅行消費単価(円/人)	29,200	33,400	35,200	37,000
外国人旅行者	47,800	55,500	58,800	62,100
延べ宿泊者数(人)	797,450	843,500	863,000	886,400
外国人旅行者	49,886	96,000	115,500	138,900
来訪者満足度(%)	95.1	96.0	96.0	96.0
外国人旅行者	98.9	99.0	99.0	99.0
リピーター率(%)	60.0	66.0	69.0	70.0
外国人旅行者	—	—	—	—

※「旅行消費単価」と「リピーター率」の基準値は、「日本版DMO形成・確立計画」(観光庁提出)に記載の数値。「延べ宿泊者数」と「来訪者満足度」の基準値は、花巻市からのヒアリングを基に設定した。

また、目標値については、花巻市からのヒアリングのほか、岩手県の目標値設定の考え方(「みちのく岩手観光立県第3期基本計画」(平成31年3月策定))を参考に設定した。

<旅行消費単価>

- ・毎年600円ずつ伸ばすこととして設定。
- ・外国人旅行者は、毎年1,100円ずつ伸ばすこととして設定。

<延べ宿泊者数>

- ・日本人旅行者は2018年実績(747,564人)の維持を目指す。この数値に、下記により算定した外国人旅行者の目標値と合算により設定。
- ・外国人旅行者は、2020年までを年平均22.7%ずつ、2020年以降は年平均6.4%ずつ伸ばすこととして設定。

<来訪者満足度>

- ・現状を上回る目標値として、市の目標値と合わせ96%を設定。
- ・外国人旅行者についても、過去の実績を上回る99%を設定。

<リピーター率>

- ・毎年1%ずつ伸ばし、70%以上を維持。
- ・外国人旅行者は、今後現状を把握した上で設定。

3. 主に狙うマーケット

○花巻が想定する主要なマーケットを以下の通り設定します。

①首都圏および仙台を中心とする、ゆったりとした旅をしたいカップル・夫婦および家族旅行

- ・花巻市が実施したアンケートでは、当地を訪れる観光客の6割が家族旅行であり、また出発地は宮城県と関東圏でおよそ5割を占めます。
- ・また、団体旅行から個人旅行へと国内旅行市場が変化している中で、子どもの手がある程度離れた40代以上、特にカップル・夫婦は個人旅行への意欲も高くなっています。
- ・これらの層は、花巻の強みである「温泉」をゆつくりと楽しんでもらえると考えられることから、まず第1に狙うべきマーケットとして設定します。

②海外からの団体旅行および日本の原風景を楽しみたいFIT(*)

- ・いわて花巻空港には、台湾便と上海便が就航しており、これらの地域は、今後の市場拡大が最も見込めるマーケットです。
- ・現状、当地を訪れる外国人観光客の大半は団体旅行者ですが、全国的にはFIT(*)化が進んでおり、当地においても同様にシフトしていくと考えられることから、個人旅行者も対象とします。
- ・欧米豪市場については、まだ東北全体においても非常に小さいマーケットとなっていますが、比較的長い期間(2～3週間)をかけて、日本の原風景を楽しみたい、ゆつくりと滞在したいというニーズそのものは高いと考えられます。
- ・花巻は新幹線駅もありアクセス性が高く、東北エリアの中でもこうしたニーズに対応しやすい地域であることから、これらについても狙うべきマーケットとして設定します。

*FIT(Foreign Independent Tour または Free Individual(Independent) Traveler) :

パッケージツアーや団体旅行に参加するのではなく、個人で自分の目的にあわせた旅行をすること(人)

4. ビジョンの体系

- 花巻の観光振興のコンセプト『花巻12湯 ～湯ったり、感じる「花巻じかん」～』を実現させるため、4つの基本戦略を設定します。
- なお、戦略の推進にあたっては、今後の増加が見込まれる外国人旅行者の嗜好やニーズへの対応を意識して取り組みます。

1. 滞在の魅力向上

- ・「花巻にいかに長く滞在してもらうか」はコンセプト実現の最も重要なポイントであることから、温泉をはじめとした花巻の地域資源を活用し、滞在の魅力向上を推進していきます。

2. 市内外の回遊性の向上

- ・花巻の魅力を「線」さらには「面」として満喫してもらうことが長い滞在にも繋がることから、市内、更には市外も含めた回遊性を向上させていきます。

3. 観光まちづくりの推進

- ・花巻の地域としての魅力を高めるためには、さまざまな分野での取り組みが必要なことから、関係主体の連携を促進しながら、観光まちづくりを推進していきます。

4. 観光推進基盤の整備

- ・各種の観光活性化に向けた取り組みには、そのベースとなる組織やデータ等が必要なことから、これらの各種推進基盤を整備していきます。

○4つの基本戦略を実現するためのプロジェクトを以下のように設定します。

※中期および後期の重点プロジェクトは、前期終了時の見直しにおいて検討します。

[コンセプト]	[基本戦略]	[プロジェクト]		
		[前期] (2020～23年)	[中期] (2024～26年)	[後期] (2027～29年)
花 巻 12 湯 ～ 湯ったり、感じる「花巻じかん」～	1. 滞在の魅力向上	1-1.花巻12湯が連携した滞在型プラン 創出プロジェクト 着手可能な取り組みについては順次実施	1-2.花巻の特産品活用プロジェクト 必要に応じて継続	
	2. 市内外の回遊性の向上	2-1.温泉や市内各観光スポットを快適に 移動できる二次交通整備プロジェクト 着手可能な取り組みについては順次実施 着手可能な取り組みについては順次実施	2-2.まちあるき観光創出プロジェクト 必要に応じて継続 2-3.周辺エリアとの連携促進プロジェクト	
	3. 観光まちづくりの推進	3-1.花と地域資源活用プロジェクト 着手可能な取り組みについては順次実施	3-2.観光による効果の見える化と市民参加促進プロジェクト 必要に応じて継続	
	4. 観光推進基盤の整備	4-1.外国人旅行者の受入れ環境整備 プロジェクト 4-2.観光マーケティング・プロモーション推進プロジェクト	必要に応じて継続	

(※“推進体制”については第6章にて整理)

第5章 プロジェクト

【前期(2020～23年)重点プロジェクト】

1. 滞在の魅力向上

1-1. 花巻12湯が連携した滞在型プラン創出プロジェクト

■目指す姿■

花巻12湯の中で宿泊場所を変えながら、また花巻の自然や文化を楽しみながら滞在する旅行者が多く訪れている。

(プロジェクトの概要)

- 花巻12湯それぞれの特徴がどのようなものであるかを様々な視点(泉質、利用者層等)で整理したり、12で分類できるもの(星座、干支等)と関連付けたりしていくとともに、「あなたには、この温泉がお勧め」など、わかりやすくPRしていく。
- 個性の異なる温泉宿が共通できるテーマや連携方策を議論し、花巻での宿泊日数を延ばすための宿泊プランを創出することで滞在化を促進していく。
- ラフティングなどの自然体験、農業体験、健康づくり体験、宮沢賢治をはじめとする先人を学ぶツアー、雪に関連する体験プログラム等、地域資源を生かした各種のプログラムを創出し、温泉滞在と組み合わせることで魅力を向上させていく。

2. 市内外の回遊性の向上

2-1. 温泉や市内各観光スポットを快適に移動できる二次交通整備プロジェクト

■目指す姿■

旅行者が、温泉エリアと市内の観光スポット間を、また、一次交通の拠点(新花巻駅、花巻駅、花巻空港)と温泉エリアや市内の観光スポット間を容易に移動できるようになっている。

(プロジェクトの概要)

- 旅行者ニーズの高い二次交通の動線を調査・検討する。
- 循環/送迎バスや乗り合いタクシー、レンタサイクルなどの活用、また、今後の技術開発の動向も踏まえたMaaS(※)や自動運転バスの導入可能性なども含め、二次交通のあり方を検討した上で整備を進める。

※Mobility as a Serviceの略。ICTを活用してマイカー以外の交通をサービスとして捉えてシームレスにつなぐこと。

3. 観光まちづくりの推進

3-1. 花と地域資源活用プロジェクト

■ 目指す姿 ■

「花」が季節ごとに楽しめる場所や、花巻の良さを感じられるスポットが整備・周知され、多くの旅行者が訪れている。

（プロジェクトの概要）

- 年間を通して花を見ることが出来るよう、市内のどこで、いつ、どのような花が咲くのかを抽出・整理し、花巻を「花のまち」としてPRしていく。
- 花巻の良さを表すようなまちなみや自然景観を楽しめるスポットに限らず、アニメや野球など花巻にゆかりのある地域資源についても抽出・整理し、SNS等での情報発信を推進するほか、必要に応じて魅力の向上や活用に向けた整備を行う。

4. 観光推進基盤の整備

4-1. 外国人旅行者の受入れ環境整備プロジェクト

■ 目指す姿 ■

個人旅行で訪れた外国人旅行者でも安心して花巻での滞在を楽しめるようになっている。

（プロジェクトの概要）

- 観光案内サインの多言語化、Wi-Fi環境の整備、観光関連施設でのキャッシュレス化の推進、トイレの洋式化など、外国人旅行者にとってのニーズの高い受入れ環境の整備を進める。
- 外国人との簡単なコミュニケーション用の冊子制作やセミナー等を実施し、地域全体で外国人旅行者を受入れていく意識を醸成していく。

【全期(2020～29年)重点プロジェクト】

※マーケティング・プロモーションについては常に実施していく必要があることから、中期(2024～26年)および後期(2027～29年)も継続して重点プロジェクトとします。

4. 観光推進基盤の整備

4-2. 観光マーケティング・プロモーション推進プロジェクト

■ 目指す姿 ■

来訪者の人数や消費額、観光行動など、花巻の観光に関する各種データが把握・蓄積され、それらデータの分析に基づいてプロモーション等の施策が展開されている。

(プロジェクトの概要)

- 来訪者の消費額や満足度等の目標値に関係するデータをはじめ把握すべき指標を明確にした上で、定期的に調査を実施するとともに、ビッグデータの活用方法を検討する。
- 把握されたデータに基づいて設定したマーケットに対し、花巻の何をどのような手法で訴求すれば効果的なプロモーションとなるか検討し、実施する。
- 花巻を快適に観光してもらうために必要な交通情報などを、旅行前・旅行中でもWEBやアプリ等で取得できるように効果的な情報発信の方策を検討し、実施する。
- インバウンド向けのプロモーションについては、関係団体との連携および役割分担を行いながら推進していく。

【中期(2024～26年)、後期(2027～29年)重点プロジェクト】

※中期および後期の重点プロジェクトは、前期終了時の見直しにおいて検討します。

1. 滞在の魅力向上

1-2. 花巻の特産品活用プロジェクト

■目指す姿■

花巻といえばこれ、といった特産品が存在するとともに、それが市内各所で味わえたり、体験プログラム等として楽しめたりするようになっている。

(プロジェクトの概要)

- わんこそばや雑穀など、花巻の「食」の魅力として打ち出せるものを整理・抽出し、活用の可能性を検討していく。
- 地元産食材の適切な調達方法を検討した上で、宿泊施設を中心とした地元産の食材利用を推進していく。
- 市内で醸造されている日本酒、ワイン、ビール等も観光に活用できる有力なコンテンツであることから、酒蔵・醸造所を巡るプログラムや市内のお酒が一堂に会するイベント等を創出していく。

2. 市内外の回遊性の向上

2-2. まちあるき観光創出プロジェクト

■目指す姿■

花巻の市街地をはじめとした複数のエリアに、まちあるきを楽しめる空間があり、多くの旅行者が訪れている。

(プロジェクトの概要)

- 市街地と宿泊施設との連携、情報交換を促進し、温泉エリアを訪れた旅行者への市街地に関する情報提供を促進する。
- 市街地の空き店舗などを活用して推進されているまちづくりと、観光に関する取り組みとの連携を強化し、まちあるき観光ができる空間のにぎわい創出を推進する。

2. 市内外の回遊性の向上

2-3. 周辺エリアとの連携促進プロジェクト

■ 目指す姿 ■

花巻を拠点として滞在しながら、周辺エリアの観光も楽しむ旅行者が多く訪れている。

(プロジェクトの概要)

- 花巻と関連付けができる観光資源を整理・抽出し、観光プログラムとして整備する。
- 周辺エリアと連携し、ターゲットに即したプロモーションを展開していく。

3. 観光まちづくりの推進

3-2. 観光による効果の見える化と市民参加促進プロジェクト

■ 目指す姿 ■

花巻を訪れる人が増加するとともに滞在化が促進されることによる効果が見える形で示され、多くの市民が観光による効果を認識し、観光に関する取り組みへの市民参加がなされている。

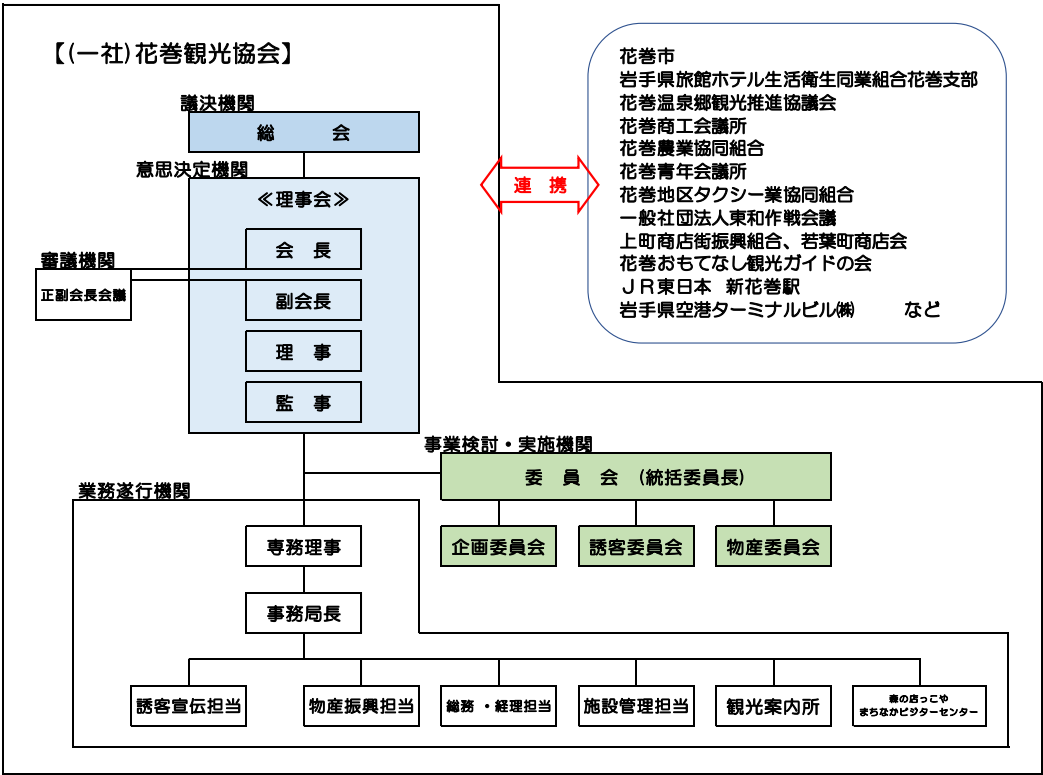
(プロジェクトの概要)

- 把握・蓄積された各種の花巻の観光に関するデータを基に、花巻における観光による経済波及効果を推計し、わかりやすい形で市民に伝える。
- 観光による経済的・社会的効果や、観光に関する具体的な取り組み方などに関するセミナーやシンポジウムの開催等により、観光への理解と市民参加を促進する。併せて、市民の観光振興への貢献が目に見える形になるような仕組みを構築し、市民参加を推進する。

第6章 ビジョンの推進体制と監理

1. ビジョンを推進するための体制

- 本ビジョンは、一般社団法人花巻観光協会が中心となり、花巻市や花巻温泉郷観光推進協議会をはじめ、市内の多様な主体と連携しながら推進していきます。
- 特に、一般社団法人花巻観光協会に設置する委員会(企画委員会、誘客委員会、物産委員会)が、具体的な事業検討や実施の中核を担います。



2. ビジョンの監理

- 毎年、一般社団法人花巻観光協会に設置する委員会が中心となり、ビジョンに位置付けられた各プロジェクトの進捗状況を確認しつつ、評価を行います。
- その評価に基づき、次年度事業の方針を決定し、実行していきます。なお、事業実施にかかる財源については、自主事業等による収入確保に努めるほか、花巻市からの補助金・業務受託や国・関係機関の観光支援メニューなどを活用していきます。
- こうしたPDCA (Plan-Do-Check-Action) サイクルを毎年実施していきます。
- 更に、前期 (2020～23年)、中期 (2024～26年)、後期 (2027～29年) の各期の最終年には、期間中の取り組みの振り返りや次期に実施する重点プロジェクトの検討等の見直しを行っていきます。